

# MODERNE DEUTSCHE ドイツ・ポスター 1890-1933 PLAKATE

19世紀から20世紀への転換期にドイツで刊行された美術雑誌『パン (PAN)』や『ユーゲント (Jugend)』、1919年から1933年にかけて美術と建築に関する総合的な教育を行ったバウハウスのグラフィック・デザインは、すでに第二次世界大戦前から日本ではよく知られていました。しかし、その両時代をつなげ、当時のドイツにおけるグラフィックの動向を紹介したような展覧会はこれまで開催されてきませんでした。本展は、美術図書館（ベルリン）、ディ・ノイエ・ザンムルンク（ミュンヘン）など、国内外から集められたポスター、雑誌、関連資料など約170点によって、1890年から1933年にかけてのドイツにおけるポスターの魅力と先進性を多角的に検証しようとするものです。

ドイツの近代ポスターは、広告宣伝のための画とテキストが融合した新しい視覚媒体として、商業主義と結びつき、急速に大衆に裾野を広げる一方で、単なる広告手段としてだけでなく、新たな芸術としても大衆に受け入れられていきました。そして、その後の世界戦争、敗戦、ワイマール共和国、そしてナチスの台頭へと至る激動の時代と共に多様化しながら、第二次世界大戦前に、バウハウスや新たな時代のデザイナーたちによって、新たな造形言語を獲得していきます。さらに、本展では、有名な「カルピス」の国際懸賞広告や杉浦非水を中心とした「七人社」の活動など、ドイツから影響を受けた日本の同時代の作品・資料も紹介し、ドイツの近代ポスターの全貌に迫ります。

## <開催概要>

- 名 称： ドイツ・ポスター 1890-1933 展  
会 場： 京都国立近代美術館（岡崎公園内）  
〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町  
電話 075-761-4111
- 会 期： 2008年2月26日（火）～3月30日（日） ※月曜休館  
開館時間： 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）  
主 催： 京都国立近代美術館、読売新聞大阪本社、読売テレビ  
後 援： 大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館、京都ドイツ文化センター（以上申請中）、日本グラフィックデザイナー協会、日本デザイン学会
- 協 賛： ビーバンジョア  
特別協力： 竹尾  
協 力： ルフトハンザ ドイツ航空、Lufthansa Cargo AG、白木屋画材額縁店  
助 成： ポーラ美術振興財団

※京都展終了後、豊田市美術館（4/29～6/1）、宇都宮美術館（11/23～12/28）へ巡回します。

# MODERNE DEUTSCHE PLAKATE ドイツ・ポスター 1890-1933

## ■ 展覧会構成

第Ⅰ章 近代ドイツ・ポスターの先駆者たち；1890-1900年

第Ⅱ章 近代ドイツ・ポスターの黄金時代；1900-1914年

1. ドイツ諸都市に開花したポスター芸術
2. ミュンヘン——ポスター芸術先進の地
3. ベルリン——ポスター芸術のメトロポール
4. ハンス・ザックスとポスター愛好家協会

第Ⅲ章 第一次世界大戦中のポスター芸術；1914-1918年

第Ⅳ章 ポスター芸術の新潮流；1919-1933年

1. 政治的ポスター
2. 黄金の20年代——新しいライフ・スタイル
3. 新たな造形言語の獲得

第Ⅴ章 日本にみるドイツ近代ポスター：その受容と展開

1. 六人組、ドイツ商業美術の紹介
2. 七人社と『アフィッシュ』
3. カルピス国際懸賞
4. 世界大戦ポスター展覧会

# MODERNE DEUTSCHE PLAKATE ドイツ・ポスター 1890-1933

## ■ 展覧会の見どころ

### ドイツ近代ポスターの誕生 ミュンヘンとベルリン

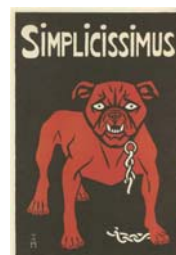
19世紀末、当時のドイツの芸術の中心であったミュンヘンでは「ユーゲントシュティール」と呼ばれる芸術運動が花開きます。この運動の語源となったのが、雑誌『ユーゲント』でした。豊かな芸術的伝統を背景に、フランスを中心とするロートレックなどに代表される「絵画的ポスター」が主流であったミュンヘンでの動向を、ルートヴィヒ・ホールヴァインらの活動を中心に紹介します。

一方で、1871年のドイツ統一後、帝国の首都となったベルリンでは、都市の成長とともに様々なポスターが制作されるようになり、名実ともにポスター芸術の中心地となっていきます。その際に特徴的なのは、19世紀的な「絵画的ポスター」から、いわゆる「即物的ポスター」(Sachplakat)が台頭してきたことです。ベルリンはその動向の中心地であり、代表的な作家としてルツィアン・ベルンハルトやユリウス・クリンガーが挙げられます。「即物的ポスター」の提唱者として名高いルツィアン・ベルンハルトは、広告ポスターの基本要素を三つのパート「画・背景・テキスト」に還元し、美的でありながら瞬間的な内容伝達を可能にする新たな画面構成を創造しました。例として1908年に靴販売店「シュティラー」のために制作されたポスターなどが挙げられます。アーティストによる、広告宣伝のための手段として、画とテキストが融合した新しいメディアは、急速にその裾野を広げていきました。本展では、百花繚乱を呈したベルリンでの動向を紹介し、ドイツ・ポスターの最初の黄金期を紹介します。

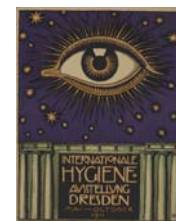
ルートヴィヒ・フォン・ツムブッシュ  
《ミュンヘンの挿絵入り週刊美術  
&生活雑誌『ユーゲント』》  
1896年 リトグラフ  
宇都宮美術館蔵



トーマス・テオドル・ハイネ  
《挿絵入り週刊誌『ジンプリツィシムス』》  
1896年 リトグラフ  
ディ・ノイエ・ザンムルンク、ミュンヘン蔵



フランツ・フォン・シュトゥック  
《国際衛生博覧会、ドレスデン》  
1911年 リトグラフ  
宇都宮美術館蔵



ルートヴィヒ・ホールヴァイン  
《リヒャルト・シュトラウス週間》  
1910年 リトグラフ  
竹尾ポスターコレクション



ルツィアン・ベルンハルト  
《シュティラー靴店》  
1908年 リトグラフ  
竹尾ポスターコレクション



# MODERNE DEUTSCHE PLAKATE ドイツ・ポスター 1890-1933

## ポスター芸術の新潮流

広告ポスターで発揮された高い伝達能力は、また政治分野においてもプロパガンダ・ポスターとして利用されることになり、第一次世界大戦中には一連の戦争ないし銃後のポスターが、戦後には政治的（政党）ポスターが製作されました。戦争というテーマがポスターの主題と表現にどのような影響を与えていたかを紹介します。

大戦後の混乱が多少の落ち着きを取り戻し、いわゆる黄金の 20 年代と呼ばれる時代になると、大都市ベルリンを中心に爛熟した文化が花開きます。ポスターにも、映画や劇場公演、キャバレー、旅行といった新たなライフスタイルと連動した主題が数多く登場します。一方で、従来の「絵画的ポスター」や「即物的ポスター」とは異なる新たな造形性をもったポスターも誕生します。バウハウスやオランダのデ・ステイル、さらにはロシア構成主義の影響をうけて抽象化されたイメージを構成的に配置したポスターや、新たなタイポグラフィ、そしてフォト・モンタージュなど新しい手法を用いたポスターがあらわれます。こうして、ヘルベルト・バイヤーに代表されるバウハウスの作家たちやヤン・チヒョルトなどの新世代によって、ドイツのグラフィックは第二次世界大戦前、第二の黄金期を迎えることになるのです。

セザール・クライン  
《労働者、市民、農民、兵隊、  
全てのドイツ人民は団結し、  
国民集会に参加せよ》  
1918年 リトグラフ  
宇都宮美術館蔵



ヴァリー・ズバス  
《ドイツ》  
1927年ごろ リトグラフ  
竹尾ポスターコレクション



ヴァルター・シュナッゲンベルク  
《ドイツ劇場》  
1920年ごろ リトグラフ  
竹尾ポスターコレクション



オットー・アルプケ  
《IPA: 国際毛皮製品博覧会、ライプツヒ》  
1930年 リトグラフ  
宇都宮美術館蔵



ヤン・チヒョルト  
《市立職業訓練学校展覧会》  
1931年 オフセット、リトグラフ  
竹尾ポスターコレクション



# MODERNE DEUTSCHE PLAKATE ドイツ・ポスター 1890-1933

## 日本にみるドイツ近代ポスター

この章では、大正・昭和戦前期の日本における「ドイツ・ポスターの紹介」に焦点を当てます。まず、それまでの章の流れを受けて、ミュンヘンの「六人組」(Die Sechs) や他のポスター作家の仕事が、同時代のわが国のグラフィック・デザイン叢書『現代商業美術全集』のなかで、多くのページを割いて紹介されていることを示し、その新鮮で大胆な作品傾向を探ります。これとは別に、どちらかといえばフランスのポスター芸術に影響を受けた杉浦非水、その仲間たちが編集・発行したポスター研究雑誌『アフィッシュ』でのドイツへの言及、ドイツのグラフィズムとのつながりを感じさせる非水作品も紹介します。そして、「第一次世界大戦後のインフレに苦しむドイツのクリエイターの救済」という目的で、関東大震災の年に開催された国際コンペ「カルピス広告懸賞」(1923年)をめぐる秘話を、新発見を含む貴重な資料で解き明かし、併せて、その2年前に大阪と東京で行なわれた「世界大戦ポスター展」を、今も日本に秘蔵されている当時のコレクションから顧みみます。

作家名不詳 世界大戦ポスター絵葉書  
(第二種より)  
《独逸の過激主義防止ポスター「無政府主義と其暴行強迫に対して独逸の各階級は一致して祖国を援護せよ」》  
1921年 オフセット  
個人蔵



マックス・ビトルフ  
《滋強飲料カルピス 国際懸賞募集ポスター  
(二等入選)》  
1923年 オフセット  
印刷博物館蔵



# MODERNE DEUTSCHE PLAKATE ドイツ・ポスター 1890-1933

## ■入場料金

	当日	前売り	団体
一般	1,300 円	1,100 円	1,000 円
大学生	1,000 円	800 円	700 円
高校生	600 円	400 円	300 円

※ 団体は 20 名以上

※ 中学生以下、心身に障害のある方と付添者 1 名は無料（入館の際に証明できるものをご提示ください）

## ■前売券

販売期間：2008 年 1 月 12 日（土）発売開始 ～3 月 29 日（土）まで

販売場所：電子チケットぴあ、ローソンチケット、イープラスほか主要プレイガイドにて販売予定。

## ■交通



- JR・近鉄京都駅前（A1 のりば）から市バス 5 番岩倉行、（D1 のりば）から市バス 100 番（急行）銀閣寺行「京都会館美術館前」下車すぐ
- 阪急烏丸駅・河原町駅、京阪三条駅から市バス 5 番岩倉行「京都会館美術館前」下車すぐ
- 阪急烏丸駅・河原町駅、京阪四条駅から市バス 46 番平安神宮行「京都会館美術館前」下車すぐ
- 市バス他系統「東山二条」または「京都会館美術館前」下車徒歩約 5 分
- 地下鉄東西線「東山駅」下車徒歩 5 分

## ■駐車場

※京都国立近代美術館には専用駐車場がございません。岡崎公園駐車場（地下）をご利用の有料入館者は、駐車場料金の割引（1 名 1 台）を受けられますので、駐車券をお持ちの上お越しください。

## ■広報媒体に掲載していただくお問い合わせ先

京都国立近代美術館 [岡崎公園内]

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町

電話 075-761-4111

テレホンサービス（展覧会のご案内）電話 075-761-9900

ホームページ <http://www.momak.go.jp>

## <広報に関するお問い合わせ>

読売新聞大阪本社 文化事業部 [ドイツポスター1890-1933]係

担当=上原、半田

〒530-8551 大阪市北区野崎町 5-9

TEL 06-6366-1884 FAX 06-6313-1634

# MODERNE DEUTSCHE PLAKATE ドイツ・ポスター 1890-1933

## ■関連イベント

### <講演会>

演題：ドイツ・ポスターの近代（仮題）

講師：ルネ・グローナート（ドイツ・ポスター博物館長）

日時：3月1日（土） 午後1時30分から3時まで

場所：京都国立近代美術館 1階講演室

### <シンポジウム>

演題：ポスターにおけるジャポニスム（仮題）

日時：3月22日（土） 午後1時30分から5時まで

場所：京都国立近代美術館 1階講演室

共催：ジャポニスム学会

\*パネリストなどの詳細は、随時ホームページで発表いたします。

ともに聴講無料、先着100名、午前11時から整理券を配布します。

### <広報に関するお問い合わせ>

読売新聞大阪本社 文化事業部 [ドイツポスター1890-1933]係

担当＝上原、半田

〒530-8551 大阪市北区野崎町5-9

TEL 06-6366-1884 FAX 06-6313-1634